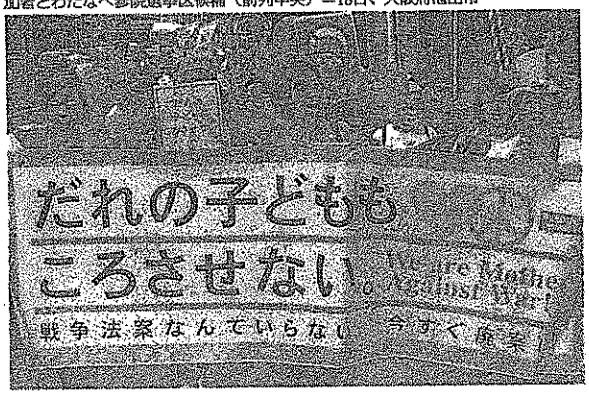
9/19 赤旗

戦争法案反対 全国各地で

「戦争させない」「子どもを守る」とアピールする「ママデモ」の参加者とわたなべ参院選挙区候補（前列中央）＝18日、大阪府池田市



「子どもとの幸せ守る」

大阪 ママの会@池田がデモ

「安保法制に反対するママの会@池田」は18日、大阪府池田市の阪急池田駅周辺で「ママデモ」を行い、約70人が「戦争させない」「子どもを守る」とコールを響かせました。

同グループの行動はこの日が初めて。デモ出発前の集会で「だれの子どもも殺させません。私たちは何度でも立ち上がります」と訴え、デモでコールをリードした生野育子さん（44）は「4年前にやっと子どもを授かりました。この幸せを壊されたくありません」。ママデモを呼びかけた森朋子さん（40）は「これからも声を上げていきます」と語りました。

沿道から手を振っていた女性（70）は「足が悪いので参加できませんが思いは同じです」と話していました。

日本共産党大阪府委員会の、わたなべ結青年学生委員会責任者（参院選挙区候補）、党池田市議団から藤原美知子市議が、強行採決への怒りと決意を述べ、ともにデモ行進しました。

大学人もアピール・集会

元国会職員も告発

長野

信州・大学人の会

「強行採決を厳しく糾弾し批判する。相手は追い詰められた。私たちが追い詰めた」。

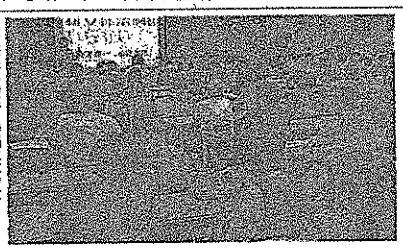
17日午後6時、長野県松本市で開いた「信州大学人の会」（安保法制の撤回を求める信州大学人の会）の第3回シンポジウムは、参院委での自公などの暴挙に対する怒りのあいさつで始まりました。

約150人が参加したシンポは、途中から事実上の抗議集会となり、「新安保法制は、明白に違憲で無効。撤回まで活動継続を宣言する」とアピールを発表しました。

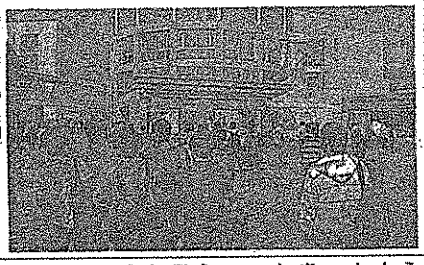
国会前行動に参加した学生も次々に発言し、「普通の人が来ている。これが民主主義だ」「強行採決で終わらない。あきらめない」と、憲法と民主主義の危機に敢然と立ち向かうエネルギーにあふれました。

国会職員（参院）として昨年末まで立法作業にも関わった男性（60）も立って、「歴代内閣法制局長官、最高裁元判事などもこぞって違憲法違反だと言っている。法的には勝負がついている。国会の立法専門家さえ『分からない法案』と言っている」と告発しました。

シンポでは、渡邊匡一氏（信州大教授）が「戦時下松本高校生の青春、小出裕貴氏（元京都大助教）が「原子力と戦争」と題してそれぞれ報告。「戦争に行く前に止めることだ」（渡邊氏）と強調しました。



強行採決への怒りの渦となったシンポジウム＝17日夜、長野県松本市の信州大学キャンパス



集いで発言を聞く参加者＝18日、愛知県美浜町

愛知

〝学内署名500人超〟 日福大

安保法案に反対する日本福祉大学教職員・学生の集いが18日夜、同大美浜キャンパス（愛知県美浜町）で開かれ、前日の参院特別委での戦争法案強行採決に抗議し、反対し続ける声明を採択しました。同大での政治的な集会は三十数年ぶり。約100人の学生や教員が集いました。

よびかけ人の前原清隆教授は、教員有志で県内大学に先立って福祉に反する戦争法案に反対声明を出したことを紹介。「可決されても決して敗北ではない。たたかいは終わりでない」と訴えました。

「キャンパス内6人に1人の反対署名、500人以上を集めた」と報告した男子学生（3年）は「賛成という学生とも話し合って人権を守っていこう」と呼びかけました。

最近、デモでコールをたずねるようになった男子学生（3年）は「国会はむちゃくちゃ。任せておけない。主権者は僕たちだ」と発言。途中から参加した女子学生（3年）の2人は「聞く耳持たない安倍首相は不信任でもおかしくない」と話しました。

集いを準備した男子学生（4年）は「集会に福祉大でこれだけ参加するなんて…。反対の意思を形にして知らせていきたい」と先を見据えていました。

採択された声明は自民、公明各党の本部に送付される予定です。

法制審議慎重に「意見書」を可決

福岡・飯塚市

福岡県飯塚市議会は18日、「安全保障法制の慎重審議を求める意見書」を賛成多数で可決しました。

意見書は、「戦後70年間、わが国が平和憲法のもと築いてきた海外で武力行使を行わないという原則を大きく転換するもの」とし、「政府には、安保法制に関する国民の疑問や不安を真摯（しんし）に受け止め、通常国会での成立にこだわらず、国会での審議を慎重かつ丁寧に進める」よう求めています。